

CAMPUS MAP



全学共用棟C[院生室]

S6-4

第3研究棟[特別支援教育関連講義場所]

S4-3

教職大学院講義室[附属教育デザインセンター]

S2-3

- 学食・カフェ
- 売店(コンビニ)
- ATM
- 学務係・教務係・大学院係
- パソコン教育室・サテライト教室
- 証明書自動発行機
- AED設置場所
- 駐輪場
- 駐車場
- バス停留所
- 学内バス停留所

横浜国立大学教職大学院概要

2017年9月

横浜国立大学教職大学院広報部会

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

TEL 045-339-3492(教職大学院係)

FAX 045-339-3264

URL <http://pste.ynu.ac.jp/>



学校や地域の教育課題の解決をめざす教職大学院

横浜国立大学 教職大学院 概要

教育学研究科高度教職実践専攻

YNU YOKOHAMA National University



横浜国立大学の 教職大学院はこんなところ!

実践的問題解決能力の向上を目指す

学び続ける教員の期待に応えます

中核的中堅教員

- 教育課題の分析・解決
- 同僚性の構築・活性化

即戦力となる新入教員

- 高度な教育実践力
- 学校づくりへの参画

特徴的な取り組み

- 講義は原則として午前中(学校課題解決研究、集中講義を除く)
- 地域の教育課題を学ぶ「教育改革の現状と神奈川の教育事情」
- 修士論文のような個人研究ではなく、学校課題の解決に向けた取り組みの報告書を作成
- 学校の課題解決を目指した「チームメンタリング実地研究」
- 研究者教員と実務家教員のTTによる講義・実習・課題研究の指導
- ICT機器が整備された講義室、院生室
- タブレット端末の活用(授業記録・eポートフォリオ)
- 6ターム制を生かした効率的・効果的なカリキュラム



授業の様子

院生から ひとこと

教職大学院の特徴は「授業」にあります。日々の90分2コマの授業では、一方的な講義はほとんどなく、参加型の授業が中心で、院生による主体的・協働的な学びになっています。一つの物事についてじっくり考え、校種をこえた他の院生との対話を通して、新たな気づきを共有し、自分の考えを広げています。さらに、自己の実践を省察し、理論と結びつけながら実践力の向上に努めています。このように、共に学び、共に高め合う学習環境の中で行われている「授業」は教職大学院の大きな魅力です。

現職教員学生 古屋 公詳(厚木市立小鮎中学校)



求める人材像(アドミッションポリシー)

現職教員学生

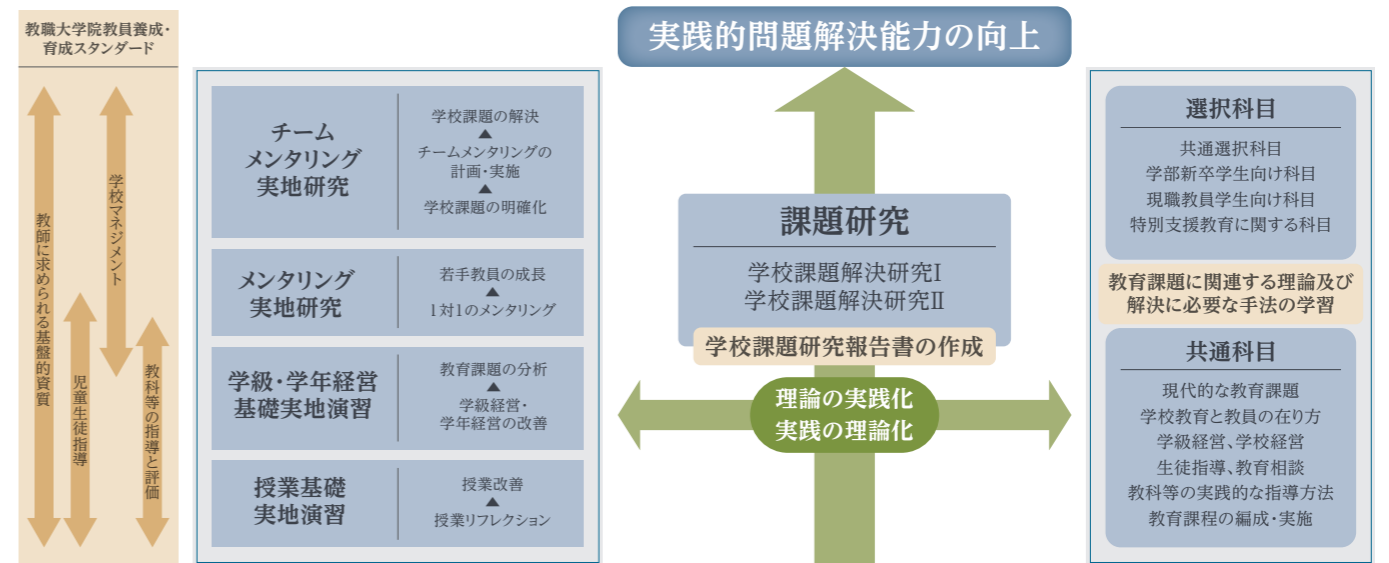
授業づくりや学級・学年経営等に関する基本的な知識を持ち、学校や地域の教育課題解決に向けて積極的に努力し学び続けようとする高い志を有する教員。

学部新卒学生

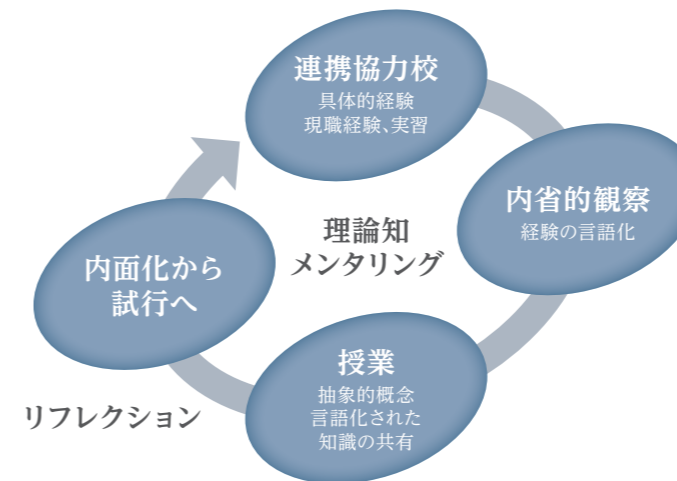
教員免許を有する者で神奈川県内の教員を志し、自らの課題意識を持ち、理論に裏打ちされた実践力を高め、同僚と協働しつつ生涯にわたって学び続ける意欲を有する者。



カリキュラム構成



理論と実践の往還



本教職大学院の教育課程は、学校教育にかかわる課題に、学校内、学校間、地域と協働して対応できるメンタリング能力の高い教員、教育活動の質を高める実践的問題解決能力を持った教員の養成・育成を目的としてデザインしています。

現職教員学生には、学校や地域のスクールリーダーとして活躍できる高度専門職として、実践知を理論によりさらに高度化し、責任感と意欲を高めることができるカリキュラムを、学部新卒学生には、新しい学校づくりの一員として活躍できる専門職として、理論と実践の往還により確かな力を定着させ、学び続ける意欲をもった人材を養成するカリキュラムを提供しています。また、横浜国立大学教職大学院教員養成・育成スタンダードに基づくカリキュラム編成になっており、各科目を通しての学びとリフレクションをポートフォリオに蓄積しながら、上記スタンダードの項目の達成を目指した学びに取り組みます。

さらに、大学での講義・演習とともに、連携協力校を中心とした課題解決に取り組み、現場を理論的に観る力と同時に理論を現場の知恵で問い直していくような学習が期待され、研究者教員・実務家教員・現職教員学生・学部新卒学生の交流による人の往還をきっかけに、互いの知恵が結びつき、還流し、変化が動き出すような、教員養成と教員研修と教育研究と教育実践が同時に生起するような学習環境の構築を目指しています。

院生から ひとこと

カリキュラムは、メンタリング能力を発揮して学校の課題の解決に対応することができる教員の育成を目指して構成されています。履修できる科目は「共通科目」「選択科目」「学校実習科目」「学校課題解決研究」に大別されます。そして、学校課題解決研究を通して、全ての科目の学びを、理論と実践の往還の中でさらに深めることができるようになっています。現職教員学生は、スクールリーダーとして活躍することができる高度な実践的問題解決能力を、学部新卒学生は新しい学校づくりに即戦力として参画することができる確かな力を身に付けることができます。教職大学院で修学し、学校全体のことを広い目で考えていかなければならない意識が高まりました。また、メンタリングについての学びを通して、人材育成の視点と理論を学びました。

現職教員学生 片桐 大樹(横浜市立稲荷台小学校)



学校課題解決のプロセス

～理論と実践の

往還を通して教員としての資質能力の向上を目指す～

学校課題解決研究

全学生と全教員が一堂に会して、ともに学ぶ

全教員・全学生が一堂に会し、連携協力校における授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わるそれぞれの取り組みについて、情報交換、意見交流を定期的に行い、リフレクションを行います。個別課題の追究と集団によるプレゼンテーションと討議による検討、指導教員による指導を組み合わせ、「学校課題研究報告書」の構想と作成を行います。



中間報告会の様子

中間報告会

学校課題研究報告書

研究成果報告会

教職大学院

院生からひとこと

よりよい学校づくりのための、学校課題解決研究。扱う課題について、自分の考えを所属校と早めに共通確認できると、より研究を進めやすいです。

私は「授業づくりの土台をつくる～今後の特別支援教育におけるカリキュラム・マネジメントの構築にむけて～」というテーマのもと、校内研究の時間にチームメンタリング実習を取り入れ、グループワークを含めた授業検討会を通して同僚性を高めるとともに、授業づくりの土台を築くことを目標としています。

月3回程度所属校で実習する中で、同僚の理解無くして実習や課題解決研究は成し得ないと実感しています。私の場合は、事前の説明と見通しを有するスケジュールの提示が協力を得るカギだと感じました。



現職教員学生 小野 亜依美(神奈川県立三ツ境養護学校)

研究の深化

実習・実践の省察

eポートフォリオ

実習や各科目を通しての学びとリフレクションを、eポートフォリオに残していきます。eポートフォリオはデジタルで保存され、蓄積されていきます。院生間でお互いの記述が確認できるため、他の院生が何を学んでいるのか共有することで、学びの質を深める、また、広げることもできます。

eポートフォリオは、本学教職大学院教員養成・育成スタンダードに基づいて設計されているため、修了まで常に目的意識をもって、自らの学びをモニタリングすることを支援します。

実習・実践の改善

成果の還元



実習の様子

連携協力校(実習校)

連携協力校には、移動式と固定式があります。移動式とは、現職教員学生の原籍校を指します。主に「メンタリング実地研究」や「チームメンタリング実地研究」を行います。固定式とは、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市教育委員会から推薦された学校及び本学教育学部附属学校になります。主に「授業基礎実地演習」「学級・学年経営基礎実地演習」を行います。

連携協力校

メンタリング実習

メンタリング実地研究

大学院の授業で学んだメンタリング理論を用いて、実習校の若手教員を対象に1対1のメンタリングを行います。

チームメンタリング実地研究

学校課題への取組

若手教師への支援

実践研究

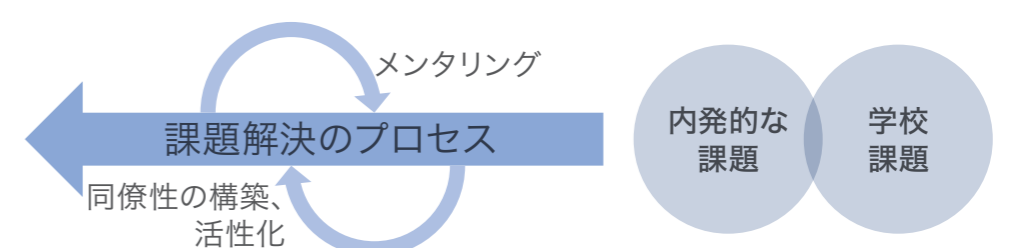
課題解決のプロセス

同僚性の構築、活性化

メンタリング

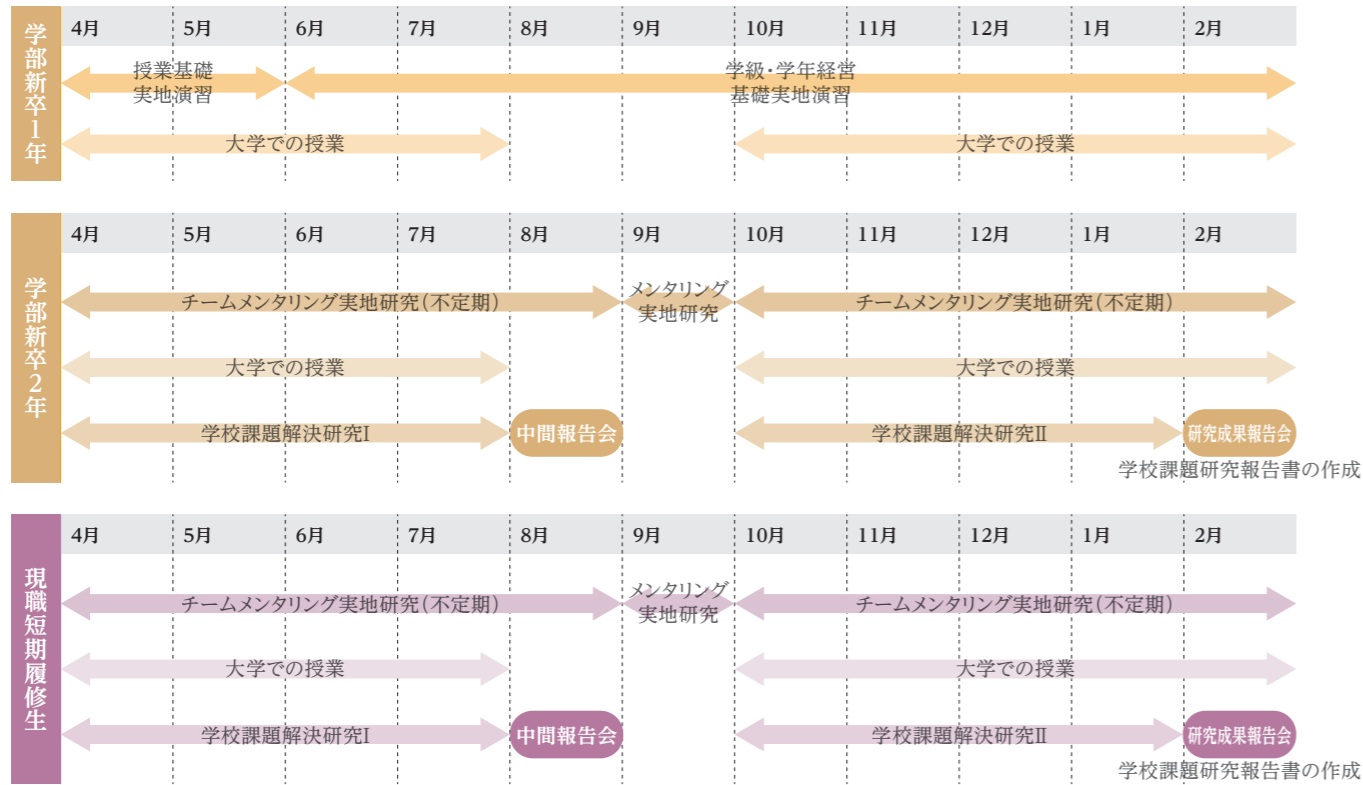
内発的な課題

学校課題



メンタリングの理論を生かしながら、学校の課題解決に取り組みます。ミドルリーダーとして、校内の教師と協働して学校の課題解決に取り組めるようになることを目指します。そのためには、校内の教師の関係性を構築し、同僚性の基盤を作ることや、若手教師の育成も視野に入れて取り組むことが求められます。管理職と連携し、校内の教師や子どもの実態調査、インタビューなど様々なデータを様々な角度から分析し、学校が抱える課題を明らかにします。そして、課題解決に向けて、多様な方法を検討しながら解決に取り組めます。そのプロセスにおいて、「学校課題解決研究」で大学教員や院生とリフレクションに取り組めます。その成果は、教職大学院での集大成として、「学校課題研究報告書」にまとめます。

1年間のスケジュール



6ターム制

教職大学院では、概ね2ヵ月を単位とする6ターム制を取っています。1回の授業は「講義+演習」を基本とした90分2コマとし、1タームで8回授業を行います。(第1ターム:4・5月、第2ターム:6・7月、第3ターム:8・9月(集中)、第4ターム:10・11月、第5ターム:12・1月、第6ターム:2・3月(集中))

学部新卒学生の1年目は、主に学校での実習を通して授業や学級経営の基礎を学び、2年目は大学での学修やメンタリング実習を通して教育実践上の課題研究に取り組みます。短期履修を認められた現職教員学生は、大学での学修や原籍校でのメンタリング実習を通して、学校が抱える課題を分析し解決に向けて取り組みます。

取得可能な免許状

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校(養護学校)及び養護教諭、栄養教諭の一種免許状を所有する者で当該専修免許状の取得を希望する者は、本専攻修了時に、所有する一種免許状に対応する「専修免許状」の取得資格を得ることができます。

小学校教諭専修免許状

養護教諭専修免許状

中学校教諭専修免許状

栄養教諭専修免許状

高等学校教諭専修免許状

特別支援学校教諭専修免許状
(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)



院生室での様子

院生からひとこと

教職大学院の学びは授業だけではなく、院生の多くが現職の先生なので、院生同士の交流から学ぶこともたくさんあります。

校種も小学校、中学校、高等学校、特別支援学校と様々で、地域も横浜、川崎はじめ茅ヶ崎、厚木、足柄など本当に様々です。普段ほとんど直接話すことのない先生方との交流は大変貴重です。小学校の校内研究や中学校の生徒指導の話や、高等学校の雰囲気と全く異なり、驚かされます。また、学部新卒の院生とも授業や院生室で話ができるのも新鮮です。若い人たちがどのようなことを考え、悩んでいるのかをじっくり話を聞けるのも大変学びになります。

授業を語り、学級経営を語り、組織論を語る。校種も違えば地域も違う現職の院生同士の学び合いの場となっています。それが横浜国大教職大学院。是非、常盤台まで足をお運びください。

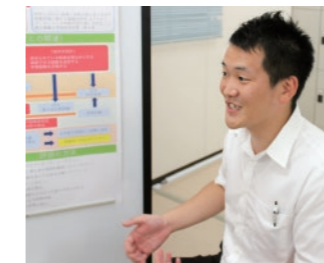
現職教員学生 本澤 勝也(神奈川県立大師高等学校)



院生のとある一日

学部新卒学生

午前	実習(横浜市立の中学校)
お昼	実習校で給食 or 院生室でご飯
午後	学校課題解決研究
夕方	リフレクション記入 論文・文献講読 実習準備



午前中は実習校へ行き、登校指導から職員会議への参加、朝学活、そして国語の授業実践を行います。1日実習校にいますが、この日の午後は大学院で「学校課題解決研究」の講義を受けます。授業実践で明確になった課題を講義内で報告し、教授や現職の先生から助言をいただき、実習に活かします。

講義の後は院生室に戻り授業の振り返りや文献講読、実習準備を行います。院生室では、学校現場での経験談や実習校での悩み、授業構想(実習)の相談、時には人生についての相談など現職の先生とお話する機会がたくさんあり、ここでも多くの学びがあります。大変なこともありますが、毎日学びに溢れています。

学部新卒学生
山崎 翔平

現職教員学生

午前	教職大学院の講義
お昼	昼食
午後・夕方	講義のリフレクション作成 担当教官との打ち合わせ など



午前は、組織マネジメントや教育改革、授業デザインなど、様々な内容の講義を受講しています。ディスカッションや模擬授業など、活動的な内容が多いです。

昼食は、院生室でとることが多いです。その日の講義の振り返りや、研究の進捗状況など、共通の話題で盛り上がりながら過ごしています。午後は、所属校に戻って学校課題解決研究を行ったり、研修会に参加したりすることもあります。

自分とは異なる校種・自治体の先生方とお話することができ、視野が広がっていると感じます。校種間の接続についてや他の自治体との交流も、教職大学院ならではの学びだと思います。

現職教員学生
深田 淳一
(川崎市立中野島小学校)

Q&A

Q 修士課程と教職大学院の違いはなんですか?

A 大きな違いは、教職大学院では、より学校現場に則した内容で実習を必須としたカリキュラムを組み込んでいることです。(理論と実践の往還)

この臨床を重視した学びについては、いざ自分が教育現場に立った時、課題解決に役立つ道筋等を得ることが出来ます。また、修士論文の作成はありませんが、修了要件単位数も修士課程の30単位数と比較し、46単位数と多くなっているのも特徴です。

	修士課程	教職大学院
学位	修士(教育学)	教職修士(専門職)
専修免許	取得可能	取得可能
単位数	30単位数以上	46単位数以上
講義	2学期制 (1コマ90分16回)	6ターム制 (2ヶ月1ターム) 【(講義+演習)180分8回】
学校実習	なし(教育インターン)	10単位
提出論文等	修士論文	学校課題研究報告書 (「チームメンタリング実地研究」 の成果をまとめます)

Q 短期履修ってなんですか?

A 入学試験選抜区分には「一般選抜」と「現職教員選抜」があります。標準修業年限は2年ですが、「現職教員選抜」には1年で修了することを認める短期履修の制度があります。

短期履修認定については、入学試験出願時の提出書類を基に口述試験で審査し、学校実習科目の免除等を認められた方が対象となります。修了単位については、基礎実地演習2科目(6単位)を免除とし、40単位となっています。

Q 学部新卒学生のメリットとはなんですか?

A 実習重視のカリキュラムを組み込んでいることから、実際の教育現場での学びが多く、将来、教育現場に立った時のギャップや困難が一般の大学出身者より低いというメリットがあります。また、学部新卒学生と現職教員学生と一緒に講義、実習を行うことで交流が深まることも魅力です。

自治体によっては、教員採用試験で一次試験が免除されるメリットもあります。